

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会 第2回立山線部会 議事録

概要

日時	令和8年10月7日(水) 15:30～16:12	
場所	立山町元気交流ステーション 2階 大会議室	
出席者	富山県	新田知事
	富山市	藤井市長
	立山町	舟橋町長【部会長】
	富山地方鉄道(株)	新庄代表取締役社長
	北陸信越運輸局	秋山鉄道部長（代理：渡邊地方鉄道再構築推進調整官）【オブザーバー】
	立山黒部貫光(株)	見角代表取締役社長【オブザーバー】

議事内容

発 言 者	発 言 内 容
瀬本課長（事務局）	只今より、「富山地方鉄道鉄道線再構築検討会 第2回立山線部会」を開会いたします。本日ご出席の皆様方には、ご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございます。私は立山町企画政策課の課長を務めております瀬本と申します。よろしくお願いいたします。 この先の進行につきましては、部会長であります舟橋町長にお願いいたします。
舟橋町長（立山町）	皆さん、こんにちは。今日は立山町までおいでいただきまして、本当にありがとうございます。 本来なら東方向に劔岳が見えるんですけども、少し雲がありまして、新庄社長さんにポスターを持ってきていただきましたので、見えたつもりでポスターを貼らせていただきました。 昨年度、3回にわたる富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会の立山線分科会において、岩峠寺駅から立山駅間を観光路線として位置付け、令和9年度から再構築事業の実施を目指すことが決まり、つづく富山地方鉄道鉄道線再構築検討会の第1回立山線部会において、鉄道や駅がもつまちづくりの拠点としての観点から、再構築事業の区間を寺田駅から立山駅に変更したところです。 本日は、再構築事業に向けて、これまで実施してきている取組や斜面防災の進捗状況の報告をはじめ、再構築事業実施計画策定に必要な利便向上策について、皆様からご意見をいただきたいと思います。 さらに、先週の本線部会(9/29)において再構築国庫補助事業費及び費用負担が示されましたので、立山線につきましても、本日で提示したいと思っております。 なお、第3回富山地方鉄道鉄道線再構築検討会における本検討会の設置要綱の改正により、立山黒部貫光株式会社の見角代表取締役社長が正式に立山線部会の「オブザーバー」としてご臨席いただくこととなりましたので、ご報告いたします。 見角代表取締役社長におかれましては、改めまして立山黒部アルペンルート観光を担う事業者の目線から、ご助言やご意見を賜りたいと存じますので、お願いいたします。

油本課長（富山県観光推進局）	それでは次第に従い、本日の議題に入ります。 まずは、議題（１）立山線利用状況及び利用促進の取組について、富山地方鉄道立山線利用促進プロジェクトチームの事務局である富山県観光推進局からご説明をお願いします。 「議題１ 立山線利用状況及び利用促進の取組について」資料１にて説明
舟橋町長（立山町）	ありがとうございました。 それでは今ほどの説明に関して、ご意見ご質問等はございますでしょうか。 （意見なし） ご意見が無いようですので、続きまして、議題（２）地鉄立山線における斜面防災対策の進捗状況について、これも富山県観光推進局からの説明をお願いいたします。
油本課長（富山県観光推進局）	「議題２ 地鉄立山線における斜面防災対策の進捗状況について」資料２にて説明
舟橋町長（立山町）	ありがとうございました。 この資料に関して、質問等がございましたら承りたいと思います。 （意見なし）
瀬本課長（事務局）	ご意見が無いようですので、議題（３）「富山地方鉄道立山線の再構築事業に向けた利便向上策（案）について」及び議題（４）「立山線に係る再構築国庫補助事業費及び費用負担」については、関連がありますので、一括して事務局（立山町）から説明をお願いします。 「議題３ 地鉄立山線の再構築事業に向けた利便向上策（案）」資料３にて説明 「議題４ 立山線に係る再構築国庫補助事業費及び費用負担」資料４にて説明
舟橋町長（立山町）	今ほど、事務局の方から、「再構築事業に向けた利便向上策（案）について」及び「立山線に係る再構築国庫補助事業費及び費用負担」について説明がありましたが、その内容につきまして、ご意見ご質問等あれば承りたいと思います。
新田知事（富山県）	先週、第３回目の再構築検討会を行いました。その場では、富山地方鉄道さんとの協議を踏まえまして、事業構造については、鉄道線全線でみなし上下方式を導入するこ

	と、そして県及び沿線の7市町村において、鉄道施設維持管理費の2分の1を負担する方向で検討を進めることを確認しました。併せまして、再構築国庫事業費についても、本線における鉄道施設の機能向上に係る概算事業費をお示しし、協議を行った結果、鉄道線全線を対象とした一体的な再構築実施計画の策定を進めることで合意をしたところであります。 そして、今日の立山線部会では、レールや枕木などの鉄道施設の機能向上に加えまして、駅舎の改修、新型車両の導入、パークアンドライド駐車場の整備など、利便性向上に向けた施策案について、事業費や費用負担の考え方も概算ですけど、ご説明いただいたところであります。実施計画の策定に向けた検討が着々と進んでいると理解しております。 一方で、説明にもありましたように、利便性向上策などについては、今後整理すべきこともあると思います。再構築実施計画には、関係者間の協議を踏まえた内容や事業費を盛り込む必要があります。 事務局の立山町におかれましては、富山地方鉄道さんとの協議を加速していただき、事業者の合意が得られた利便向上施策を示していただきたいと思います。どうかよろしくお願いします。
舟橋町長（立山町）	ありがとうございます。その他ございませんか。はい、藤井市長。
藤井市長（富山市）	今日は、立山町さんにお世話していただきましてありがとうございました。今ほど知事の方からおっしゃったとおりというふうに心得ておりますけど、今日の資料も含めて、まず見角社長に今日加わっていただきましたが、今すでに富山地方鉄道と立山黒部貫光で連携しながらの商品等々もありますけど、これからますますルート一体的な魅力的な商品の造成や、お客さんに喜んでもらえるような、特に観光客に喜んでもらえるようなところが、増えていくんじゃないかなと感じた次第であります。我々も協力してしっかりやらなければならないなと思っています。 それと、県から示していただいた資料ですけど、斜面の安全対策は人命に関わる部分でもありますし、富山地方鉄道さんがこれまで相当苦勞して、補修だとか点検だとか、運行再開の時は、本当に苦勞されてきた部分だと思いますけど、事故はやっぱりあってはならないので、砂防等を含めて、しっかり進めていかなければならないなと思っています。こういう区間があるというのも特徴的な路線でありますので、しっかりと情報共有しながら進めていけたらなと思います。 あと、立山町さんの方から示していただいた利便性向上策ですけど、まさにこの通りなので、再構築事業をやる意義というのは、地元の方々の利便性を高めていくということ、そして今年度から行われている高校生に対する支援も含めて、すごくいい事業というか、政策施策じゃないのかなと考えてますので、我々も見習うところがあれば、不二越上滝線でも活かしてまいりたいなと思っております。 国の補助スキームが少しずつ見えてきているので、頭が整理しやすくなったというふうなことだと思います。感謝を申し上げます。以上です。

舟橋町長（立山町）	ありがとうございました。そのほかにはありませんか。 （意見なし） 後ほど見角社長、新庄社長、それから北陸信越運輸局の秋山鉄道部長の代理にご臨席いただいておりますので、後ほどご挨拶いただく前に、一度お諮りさせていただきたいと思います。 まず、議題３「富山地方鉄道立山線の再構築事業に向けた利便向上策」について、事務局からの説明のとおり、今後、事業内容及び事業費について、富山地方鉄道株式会社と施工管理体制や車両運用体制等を含め、協議を進めていくこと。 議題４「立山線に係る再構築国庫補助事業費及び費用負担」について、まずは「鉄道施設の機能向上」については、資料に記載の方向で検討を進めること。 次に「鉄道施設の利便向上」につきましては、費用負担割合は資料に記載の方向で検討を進め、事業内容と事業費は今後、富山地方鉄道株式会社と協議を進めていく、ということによろしいでしょうか。 （異議なし） ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。以上をもちまして、今日の議題は終了となりますが、せっかくの機会でありますので、ご発言等を賜りたいと思っております。
見角社長（立山黒部貫光）	それでは当社の取り組みにつきまして、少しコメントをさせていただきたいと思います。 当社では、富山地方鉄道様をはじめ、関係先の皆様と連携し、アルペンルートを訪れるお客様に立山線を利用していただくため、WEB きっぷの販売や情報発信、旅行会社へのセールス活動等に積極的に取り組んでおります。 今年度は、特に立山線とアルペンルートを組み合わせた基本的な商品に加えて、立山線の利用促進に向け、３種類の WEB きっぷを実証販売しております。 一つ目は、富山・長野間の通り抜け需要を早期に取り込み、電鉄富山駅を富山県側の玄関口として利用していただくための商品でございます。 二つ目は、繁忙期の駐車場混雑を緩和させるために、マイカーから立山線への利用転換を促す商品であります。 三つ目は、地鉄電車での着席確保と立山ケーブルカーへの接続を組み入れた立山線を利用するお客様への利便性を高める商品であります。 今年度は、一定のご利用をいただいておりますので、今後、販売実績や運用上の課題

舟橋町長（立山町）	を検証した上で、さらに利用しやすい商品の造成を目指したく、次年度以降の取扱いについて、関係先と検討してまいりたいと考えております。以上です。
新庄社長（富山地方鉄道）	ありがとうございます。つづいて新庄社長お願いいたします。 富山地方鉄道です、よろしくお願いいたします。本日、立山線の利便性向上策についてのお考えをお伺いしました。バリアフリー化や駅舎の改修、そして新型車両の導入などに加えて、パークアンドライド駐車場の整備もありまして、これまで一事業者ではなかなかできなかったようなインパクトのあるご提案をいただいたことに対して、大変心強く思っております。当社としては、主にこれらハード面での施策に合わせて、やはりソフト面での利便性向上策も同じように強力に推し進めてこそ、より実効性が高まるものというふうに考えております。 先月の検討会でも申しましたが、自治体さんの負担を前提としますけれども、通学定期の負担軽減であったり、利用の少ない昼間時間帯の割引など、運賃負担のハードルを下げることで、通学、日中帯における新たな需要の掘り起こしを実現したいと思っております。今後、当社も含めて一緒に検討いただければいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 それともう一つ、立山線は観光アクセスでありますので、観光客にとっても、車利用以上に選んでいただける移動手段を目指すのはもちろんですが、さらに移動手段となるだけでなく、鉄道に乗って移動する時間そのものを楽しむことができる、例えば、先ほども町長からもありました、ああいう風景です。車窓から見える風景で、立山連峰の山並みであったり、水田に映る景色であったり、あるいは千垣橋梁であったり、そういったものの動画を撮るなどして楽しんでいらっしゃる観光客も多いと聞いております。 ですので、そんな移動手段としても、そして観光の素材としても、十分成り立つような立山線として、今後 PR をしていくべきだと思っております。富山県、立山町、富山市、そして立山黒部貫光さんとも、様々な視点でアイデアを出して、立山線の持つ魅力をさらに活かすことに向けて、連携して取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。
舟橋町長（立山町）	ありがとうございます。渡邊調整官、何かございますか。
渡邊調整官（北陸信越運輸局）	はい、北陸信越運輸局鉄道部長の秋山が、本日所用で欠席となり、代理で出席させていただいている地方鉄道再構築推進調整官渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本日の議題のまず一つ目、立山線利用状況及び利用促進の取組みということで、富山県さんの方からご報告いただきました。立山線は、生活路線と観光路線の両方の面を併せ持つところで、観光の利用増という観点で、富山県、立山町、富山市、それから、富山地方鉄道さん、立山黒部貫光さんが一つになって、いろいろご検討をいただいている、こういった結果が早々に出ているということに対しては、敬意を表する次第でございます。 地方鉄道再構築事業は、再構築実施計画の期間の取組みを通じて利用者を増や

	し、事業者の収支改善、それから輸送密度の維持改善というところを目指していくことが最終目標になってまいります。引き続き、観光客を取り入れることが、また一つ輸送密度の改善に通じると思っておりますので、引き続き、一丸となって取り組んでいただきたいと思います。我々も、ご協力できることはさせていただきたいと思っております。 それから、利便向上策案を提出いただきました。この費用は最大想定値ということで、今後、地鉄さんと事務局で協議を進めていくということで報告をいただきました。 事業については、どうしても単年度ごとの事業で区切られてしまいますので、どの駅にどの程度の工事をいつ実施するかということを、いろいろ調整をいただいて、つづさにご報告をいただきながら、我々としても鉄道局に対し、予算要求をしっかりとしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 最後、もう一点ですが、29 日の会議の際にも、鉄道部長の秋山からもお話をさせていただきましたが、鉄道事業再構築事業は、地域公共交通計画という法定計画に位置づけることが必要になってまいります。今、立山町さんの計画では、再構築を「検討する」という記載だったと記憶しております。鉄道再構築実施計画の認定申請の前には、この法定計画の「検討する」という文言を外していただいて、「位置づける」ということをご検討いただきたくよろしくお願いいたします。私からは以上です。
舟橋町長（立山町）	ありがとうございました。知事さん、よろしいですか。
新田知事（富山県）	別の視点からなんですけれども、今、富山県では「電車・バスで行こう！」キャンペーン第 5 弾というものをやっております、地域交通戦略で県民お一人、年間 50 回の公共交通を利用しようということを目指しています。 それを促進するために、様々なこういった取り組みをしているわけですが、今回の第 5 弾のキャッチコピーは、「車を降りる贅沢」でありまして、これから立山線もより一層きれいな季節になります。でも、残念ながらドライバーの方は景色を見ながら運転するのは危ないので、ということでもあります。ぜひこの電車で行く贅沢、景色を楽しみながら移動ができる贅沢というものをもっとアピールしていきたいと思います。その上でも、地鉄さん、それから立山黒部貫光さんのご努力、そして立山線利用促進プロジェクトチームの努力も大変大きいと思います。改めて感謝を申し上げたいと思います。以上です。
舟橋町長（立山町）	ありがとうございました。せっかくですから開催地になりますので、一言二言お話をさせていただきたいと思います。 今日この施設においでになった方々はお気づきだと思いますが、それぞれのロビーに高校生、それから中学生が勉強していたと思います。元は可愛い五百石駅だったんですが、当時の富山地方鉄道さんの幹部の方々にご理解いただいて、その駅舎を解体し、この施設を作ったところであります。電車も 30 分に 1 回、割と昼間は一時間に 1 回であります。学生さんたちに時間を経つのが忘れられるように図書館を併設したところでございます。 立山線は私にとっては生活路線でありまして、生活路線を守るために観光客に乗っていただきたいという思いで、これまでも取り組んでまいりましたし、これからもそう進めたいと思

ておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思っております。

とは言いつつ、観光路線で1つ、資料2-1の治山事業です。かねてから、藤井富山市長からもお話があったとおり、落石があったり、雪崩があったりで、途中で電車が止まって、その代わりに代替のバスなりタクシーを用意されていた富山地方鉄道さんにとっては大変な負担であったと思いますが、県の英断のおかげで、こうして安全対策を進められるわけですが、実はこの線路の上を歩いて見て思ったことは、この工事と一緒に常願寺川側、つまり斜面の反対側ですけども、何本かの雑木を切れば、常願寺川を見ることができるんです。片方はもう本当に斜面の山を見るしかないんですけども、反対側はもう常願寺川なんですね。

宇奈月のトロッコ電車ではありませんけども、緑も見えるし、常願寺川の清流を見ながら立山駅に向かうというのは、それなりにワクワク感があっていいのかなと思っております、ぜひこの工事にあたって、ついでに何本か木を切ってもらえるとありがたいなと思ったところでございます。

また、町ではもう予算は議会を通っておりますけども、富山県の管理されていた立山駅前の一番近いところの駐車場であります、この4月から立山町で管理を引き受けさせていただいております。来年度4月15日から、アルペンルートの期間中だけでありますが、駐車場については有料化をしたいということで進めております。車で来たい方々はちょっと離れたところに無料の駐車場がたくさんあるわけですが、電車で来ることによるメリット感も必要だろうと思っております、それも来年の4月から進めたいと思っております。状況を見て、電車で来た人、そして車で来られた方々、それぞれ立山駅周辺に来て、違う楽しみができるように、年間を通じて花を植えたり、いろんなことを地域の方々と進めていきたいとも考えております。今回の利便向上策にて出ておりませんが、ぜひ地元として頑張ってもらいたいと思っております。

以上をもちまして、本日の議論が終わりました。

先日の検討会では、「鉄道線全線を対象とした一体的な再構築実施計画の策定を進める」こととなりました。

このため、立山線についても、これまでの議論などを踏まえ、鉄道事業再構築実施計画策定に向け、検討を加速していきたいと考えております。

特に、今後、事業内容及び事業費について、富山地方鉄道株式会社と協議を進めていくとした利便向上策（案）については、早急に富山地方鉄道株式会社と事業実施に向けた協議を行い、再構築実施計画の素案に反映できるよう進めてまいりたいと思います。

なお、検討会の設置要綱では、「部会の検討結果は検討会に報告する」とされておりますので、次回の立山線部会は、11月頃に予定されている検討会の前に開催し、富山地方鉄道株式会社と協議後の「利便向上策（案）」について、検討を行いたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

瀬本課長（事務局）	それでは事務局に返します。 以上をもちまして「富山地方鉄道鉄道線再構築検討会 第2回立山線部会」は閉会となります。 本日は誠にありがとうございました。 【終了】
------------------	---